

特定非営利活動法人

芦屋市体育協会

創立 **70** 周年

未来に向かって

CONTENTS

発刊のことば	1
ご祝辞	2
特定非営利活動法人芦屋市体育協会の主な沿革	4
60周年からの10年のあゆみ	5
ASHIYA UNITED	6
種目協会の歩み	7
芦屋市陸上競技協会	8
芦屋柔道協会	9
芦屋水友会	10
芦屋登山会	11
芦屋野球協会	12
芦屋市卓球協会	13
芦屋剣道協会	14
芦屋市ソフトテニス協会	15
芦屋市弓道協会	16
芦屋市テニス協会	17
芦屋空手協会	18
芦屋バレーボール協会	19
芦屋バスケットボール協会	20
芦屋ソフトボール協会	21
一般社団法人 芦屋市サッカー協会	22
芦屋市バドミントン協会	23
芦屋市少林寺拳法協会	24
特定非営利活動法人芦屋ラグビーソサエティ	25
日本拳法芦屋	26
芦屋市カヌー協会	27
芦屋市ゴルフ協会	28
加盟団体名簿	
体育協会役員名簿	
創立70周年記念体育協会功労者表彰者	
専門委員会委員名簿	
広告	
編集後記	



芦屋市体育協会創立 70 周年記念誌に寄せて

～モダンへの挑戦・力をひとつに～

特定非営利活動法人

芦屋市体育協会会長

西 田 俊 一

芦屋市体育協会は、芦屋市の地域スポーツを総括する団体として、芦屋市のスポーツ文化の振興と市民の健康に寄与することを目的に昭和 23 年に協会発足以来「スポーツで元気な街づくり」をモットーに活動してまいりました。

スポーツを取り巻く環境は時代と共に変化していきます。体育協会発足当時の芦屋市は戦後の傷跡も残る非常に疲弊した状態だったと聞きます。そんな中で私たちの先人はスポーツで市民を元気づけようと協会発足に至ったと聞いております。また先の阪神淡路大震災でも芦屋市は最も被害の大きな地域の一つでした。そんな中で市内のスポーツ仲間が他の市民団体と力を合わせ、体育館や小学校での復旧復興活動に力を合わせて活躍したのも記憶に新しいと思います。

その後の芦屋市の厳しい環境の中でもスポーツが市民生活の中でいかに大切かということをお私達はいつも感じています。体育協会体協の役目としては競技力の向上は勿論のことスポーツマンシップすなわちフェアプレーの精神で市民モラルを向上させることもスポーツのもう一つの役目です。

先人たちは街づくりの中でスポーツが果たす役割を私たちに繋いでくれています。そして体育協会創立体協 60 周年の時に当時の花木会長のご理解をいただき、今後芦屋市も急速に進む少子化高齢化社会に向けた地域スポーツの在り方を模索し、10 年後 20 年後の芦屋市のスポーツ振興計画を策定した芦屋アスリートタウン計画を提案し、アクションプランとして小さな芦屋市が「力をひとつに」とすることで隣接の神戸市などの大都市に負けない、反対に小さな芦屋市だからできるチーム芦屋としてのスポーツ環境づくりを「芦屋ユナイテッドプロジェクト」として実践してまいりました。

10 年かけたこのアクションプランですが本当の意味でこれからの 10 年先からが少子化が進む芦屋市のスポーツ育成プランとして学校体育も含めた地域スポーツの在り方を見据えたこの計画が必要となってくるはずです。

体育協会の役割としてそれぞれの種目協会における競技力の向上はもちろんですが、指導者の養成、施設の環境整備、高齢者の健康スポーツ、そして大きな課題として障がい者スポーツをも含めた課題は決して体育協会だけではできません。

体育協会の街づくり事業として「ゴーゴーフェスタ」「子供居場所づくり」「リレーフォローライフ芦屋」「芦屋ユナイテッドリレーマラソン」など他の団体や教育委員会と協力して毎年開催している事業も年々成果を上げてきています。それと同時に芦屋市の街づくりの中での地域スポーツの重要性をご理解いただきこの 70 年間先人たちが繋いでくれた「スポーツで元気な街づくり」というモットーを大切にしながらも環境にいち早く適応するモダンな芦屋らしいスポーツ文化の構築に挑戦していきたくと思います。

創立 70 周年に至る芦屋市民や市民団体の皆様のご支援に感謝するとともにこれからの芦屋市の繁栄に共に「力をひとつに」していただけることをお願いいたします。



祝 辞

芦屋市長 いとう まい

芦屋市体育協会が創立 70 周年を迎えられましたことを心よりお祝い申し上げます。

戦後間もない混乱した社会情勢の中において、芦屋市では陸上競技協会が発足し、続いて昭和 23 年に芦屋水友会と体育協会の前身となります芦屋市体育会が結成されたと聞き及んでおります。

貴協会では、結成以来のモットーである「スポーツで元気な街づくり」を念頭に、各種団体の育成強化をはじめ、市民総合体育大会の開催や国民体育大会の誘致などにご尽力されてこられました。平成 7 年 1 月の阪神・淡路大震災などの幾多の困難を乗り越えて、本市のスポーツ振興を図ってこられたことは、歴代の会長をはじめ、各役員や加盟団体の方々の多年にわたるたゆまぬ努力の賜物であると敬意を表するところです。

本市では、平成 31 年 3 月に「芦屋市スポーツ推進実施計画（後期）」を策定しております。「“するスポーツ”，“みるスポーツ”，“ささえるスポーツ”を推進し，すべての市民が健康で豊かなスポーツ文化を楽しむことができる環境を創る」ことを基本理念とし、「ライフステージに応じたスポーツの推進」「スポーツ文化の推進」「学校・地域連携の推進」「芦屋らしいスポーツの推進」の政策目標を掲げております。この目標の達成に向けて、貴協会等と協働・連携してスポーツ推進を図り、「市民が主役のまちづくり」・「日常生活を豊かに彩るまちづくり」を進めて参りたいと考えております。

今年から 3 年間はいわゆる「ゴールデン・スポーツイヤーズ」と呼ばれています。今年のラグビーワールドカップ大会から始まり、2020 年の東京オリンピック・パラリンピック競技大会，そして 2021 年のワールドマスターズゲームズ関西大会へと続きます。日本全体でスポーツに対する機運が高まってまいりますので，スポーツを通じて本市をより一層活気づけてくださることをご期待申し上げます。

最後になりましたが，芦屋市体育協会が，本市の地域スポーツを総括する団体として、今後ますますご活躍いただきますことを祈念いたしましてお祝いの言葉といたします。



芦屋市体育協会 70 周年に寄せて

芦屋市教育委員会
教育長 福岡憲助

スポーツ振興をとおして元気な街づくりを目的に多彩な事業を展開されてこられた芦屋市体育協会が、創立 70 周年を迎えられたことに心からお祝い申し上げます。

戦後まもない昭和 23 年に芦屋市体育会として創立され、後に芦屋市体育協会となりますが、当時、生活に窮する中においてもスポーツの重要性を認識し、関係者で創設されたと聞いております。その後 70 年、その間、兵庫県では二度の国体が開催され、また平成 7 年には阪神淡路大震災に見舞われる中においても、傘下 22 団体の種目協会が団結して活動をされてきたことに心から敬意を表すところでございます。

近年では、「少子化」「高齢化」の社会が進む中で、市民スポーツの普及やトップアスリートを目指す青少年の夢を応援することを目指して「芦屋アスリートタウン構想」を提唱され、青少年の育成や強化、指導者・クラブマネージャーの養成、地域を代表するスポーツ文化の集大成としての競技会や講習会の実施など多彩なアクションプログラムとしての「芦屋ユナイテッド計画」を進めてこられました。

目前に迫った 2020 年東京オリンピック・パラリンピックの開催へとスポーツの機運が高まっていく中、スポーツ団体としての役割もますます重要なものになっていくと思われまします。これまで培ってこられた経験を活かしつつ、スポーツ推進への目標に向けて果敢に挑戦し、本市の掲げる『するスポーツ、みるスポーツ、ささえるスポーツ、を推進し、すべての市民が健康で豊かなスポーツ文化を楽しむことができる環境を創る』を基本理念としながら、今後も共に活動していきたいと考えています。

最後になりましたが、芦屋市体育協会の今後のますますのご発展とさらなるご活躍を祈念して、お祝いの言葉といたします。

—— 特定非営利活動法人芦屋市体育協会の主な沿革 ——

年 度	事 業 等
昭和 23 年 (1948 年)	11 月「芦屋市体育会」として協会発足 翌年 2 月「芦屋市体育協会」と改称
平成 8 年 (1996 年)	ゴーゴーフェスタを芦屋市子ども会連絡協議会と共催実施（継続中）
平成 10 年 (1998 年)	クロリティ交流大会を芦屋市レクリエーションスポーツ協会と共催実施（継続中）
平成 14 年 (2002 年)	芦屋市民ゴルフ大会事業を芦屋市教育委員会より受託し実施（継続中） 競技力向上研修会を実施（継続中）
平成 16 年 (2004 年)	芦屋市民体育大会総合開会式を実施（継続中） 総会開会式において体育功労者並びに優秀選手の表彰（継続中） 芦屋市民体育大会（体育協会長杯）を実施（継続中） 体協フェスタを実施（継続中）
平成 17 年 (2005 年)	9 月 NPO 法人化（特定非営利活動法人芦屋市体育協会設立総会を開催） 子供の居場所作りスポーツクラブの実施（継続中） クラブマネージャー・スポーツ指導研修会の実施（継続中）
平成 18 年 (2006 年)	芦屋市体育館・青少年センター、川西運動場、芦屋公園テニスコート、西浜公園 テニスコート、東浜公園テニスコート、芦屋中央公園有料公園施設等の指定管理 業務を芦屋市より受託（平成 30 年度まで）
平成 19 年 (2007 年)	子どもの居場所づくりスポーツクラブを「体協チャレンジ」と改称 ASHIYA スポーツフォーラムの実施（継続中）
平成 20 年 (2008 年)	創立 60 周年記念事業を実施（60 周年記念誌の発行） 第 1 回スポーツフォトコンテスト及び表彰式を実施（継続中）



60周年からの10年のあゆみ

年 度	事 業 等
平成 21 年 (2009 年)	芦屋公園テニスコートの指定管理業務を芦屋国際ローンテニスクラブ、 双葉化学との連合事業体にて芦屋市より受託 広報誌「体協だより」の発行を終了、 インターネットによるホームページを開設（継続中） <div style="float: right; border: 1px solid black; padding: 2px; margin-top: 10px;"> 体協だより <small>発行所 芦屋市体育協会 〒259-0201 芦屋市中央1-1-1 TEL 0783-22-9980 FAX 0783-21-0180</small> </div>
平成 22 年 (2010 年)	西田俊一氏が9代目芦屋市体育協会会長に就任 スポーツ振興くじ助成金を活用し A.C. 芦屋ユナイテッド（総合型地域スポーツク ラブ）の活動を実施（継続中） 運動能力評価測定会を実施（継続中） 介護予防センターの運營業務を芦屋市より受託（継続中）
平成 23 年 (2011 年)	リレー・フォー・ライフ芦屋の後援（開催・運営等の支援）（継続中）
平成 24 年 (2012 年)	兵庫県の助成金を活用して芝生育成事業に着手（西浜公園） スポーツ振興くじ助成金を活用してバスを購入（運行 平成 30 年 3 月まで） 東日本大震災支援芦屋ユナイテッドリレーマラソンを開始（継続中） スポーツフォトコンテストに係る写真講座を開催（H24～H26 間 3 回実施） 市民スポーツに関する指導者調査
平成 26 年 (2014 年)	芦屋市総合公園施設の指定管理業務を芦屋市よりミズノ、MSS、理研との連合事 業体で協同受託 兵庫県の助成金を活用して芝生育成事業に着手（芦屋市総合公園） オリンピアズ教室（バレーボール、バドミントン、サッカー）を開始（継続中） グラウンド・ゴルフ大会を開始（継続中）
平成 28 年 (2016 年)	市民スポーツに関する指導者調査
平成 29 年 (2017 年)	中央公園芝生広場（開放公園）の管理運營業務を芦屋市より受託 スペシャルオリックス日本兵庫芦屋プログラムの実施に協力（継続中） 兵庫県企業庁の協力により、浜風町の阪神・淡路臨海建設事務所内のテニスコ ートを整備、ユナイテッドスタジアムとして運用（継続中）
平成 30 年 (2018 年)	11 月 芦屋市体育協会創立満 70 年 3 月 体育館・青少年センター等施設指定管理業務の契約が終了 （総合公園・芦屋公園テニスコートの指定管理業務は継続中）
平成 31 年 令和 元年 (2019 年)	創立 70 周年記念事業を実施



ASHIYA UNITED

力をひとつに

We are not alone

(ひとりぼっちじゃないよ)

We are all integrated

(みんなつながっているんだよ)

United we are strong

(固く結ばれていれば強くいられるよ)

One team, one mission

(一丸となって、任務は1つだよ)

A few other ones are Unity in adversity

(もうひとこと言えば、逆境においてこそその団結だよ)

Don't give up!

(あきらめないで!)

私達芦屋市体育協会は、創立以来、「スポーツで元気な街づくり」をモットーに活動してまいりました。

2010年から始動した芦屋ユナイテッドプロジェクトは、芦屋市体育協会と芦屋の市民団体と協力をして「力をひとつに」を合言葉に、様々な「街づくり事業」に取り組んできました。



種目協会の歩み





芦屋市陸上競技協会の会員は日本陸連への一般登録者（ロードレースを主とした一般ランナーなど）、中学や高校の陸上競技部の部員と指導者そして協会のスタッフから構成されます。

一般登録者数は2007年には40人程度でしたが、2010年に芦屋浜アスリートクラブが加わり、2015年には80人を超えるようになりました。また、中高生も2011年3月に潮見中学陸上競技部が廃部になるというショッキングな出来事がありました。2014年以降は200人を超えて推移しています。潮見学区の多くの陸上競技を目指す生徒の受け皿を失ったままであることは残念でなりません。

芦屋市陸協ではこれらの会員や小学生そして一般市民の方を対象とし、陸上競技の普及・育成・競技力向上に向けて活動を行っています。

「普及」活動の一つであるファンランでは、ロードレース人気が続く中、人数が8000人を超え、コース上での渋滞やランナー同士の交錯が見られるようになりました。そこで主催のサンケイスポーツと相談の上、人数制限を実施することとしました。また、地元の方の生活への支障や接触を考慮してコース変更を数回行いました。「多くのランナーが参加するように」から「気持ちよく安全に走れるように」に重点が移ってきた10年でした。

「普及から育成」にかかる活動として小学生への指導も盛んになりました。市内ではアスロン、A&C ASHIYA、芦屋TFCの3つの陸上クラブが活動を行い、また、体育協会主催の体協チャレンジ（陸上競技）にも参加して楽しく走り回っています。その結果、毎年秋に行っている芦屋市陸上競技大会では小学生の参加者が一時の20人前後から2017年には40人近くに増えてきました。しかし、神戸市や西宮市から参加している小学生との力の差は大きく、課題

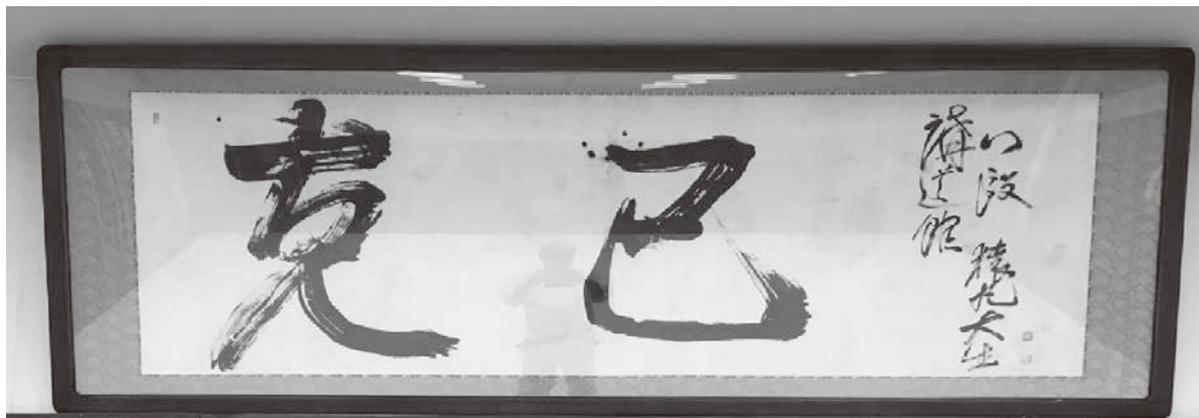
となっています。

「育成と競技力向上」は、中高生のレベルを高める事が主な活動で、学校の部活動の支援が中心となります。この10年、中学校の陸上大会開催・運営の支援、市内の合同練習会の開催、県・地区レベルの大会への芦屋市代表の派遣等を行ってきました。前述のとおり、部員数が増え、高校に行き競技を続ける生徒が増えてくるなど中高生の競技力も少しずつ高くなり、阪神地区で競える選手も多く見られるようになってきましたが、県大会以上に出場できる生徒は依然少なく、この10年に芦屋市内の中高出身者で全国大会に出場した中学生は6人、高校生は2人と僅かでした。また、大学で競技を続ける生徒は非常に少なく層の薄さは解消されていません。

その結果、芦屋市代表を派遣している「郡市区陸上」では毎年1、2名が8位以内に入賞しているものの、「阪神駅伝」や「郡市区駅伝」では男子は最下位付近で推移することが多く、女子も中位を維持できていますが選手層は薄く、常に欠場のリスクを抱えています。

競技経験のある指導者が少なく、スタッフの高齢化や人員不足等陸上競技協会を取り巻く環境は厳しさを増しており、試練の時期を迎えています。解決策を見いだせていません。

最後に、2018年9月に亡くなられた小田会長には体育協会の発足時から陸上競技協会の役員として長くご尽力を頂きました。深く感謝するとともにご冥福をお祈りいたします。



芦屋柔道協会は、1948年に猿丸吉左衛門会長のもと設立されました。

その後70年、久堀幸雄先生、徳尾野信夫先生、藤木崇博先生、西村仁先生とバトンタッチをし今に至っております。現在、少年柔道教室では、近藤信一理事長、石角洋子先生（バルセロナ五輪メダリスト）をはじめ、多くの高段者の先生方と、「自他共栄」「精力善用」という柔道の精神を子供たちに伝え、兵庫県警察少年柔道大会三位等、精力的に活動を行っております。又、中学生から一般の練習も、大

学生、社会人となってから柔道を始められた方々、少年柔道に通う保護者の方々が黒帯となり、楽しく良い汗を流しております。この70年、日本伝講道館柔道の技と教えを学び伝える場として活動を続けてきた我々は、芦屋青少年スポーツセンター柔道場において、今後さらなる飛躍を目指し、初代会長猿丸吉左衛門先生直筆の「克己」という額にこめられた精神を、子供たちはじめ、練習生の皆様と共に、歴史に刻んでまいりたいと思います。





創設から今日まで「国民皆泳」「児童の水難事故防止」をテーマに活動、今年で71回

芦屋水練学校は昭和24年、元オリンピック選手(水泳日本の生みの親)で、前回の東京オリンピックの日本水泳連盟第4代会長の高石勝男が「子供たちに夏休みを有意義に過ごして欲しい」との願いから、当時の芦屋市長猿丸吉左衛門氏がこれに快く賛同いただいたことにより誕生しました。以来、水練学校は「国民皆泳」と「児童の水難事故防止」をテーマに、海から朝日ヶ丘のプールへと拠点を移し、今年で71回を迎えます。

この間、卒業生は、合計1522名を数えます。この卒業生が生徒を指導する現役制度を導入し、先輩が後輩を指導する伝統を守って、今日まで無事故を続けて参りました。

1. この10年を振り返って

この10年は、指導者の不足が続いております。要因として学校生活、教育環境や情報化社会の趣味・思考の変化が考えられます。そこで熟年教師のOB・OJに指導協力を得て、その指導員数から水練学校の募集定員を先着順の450名としております。入校受付も7月第1週の日曜日で、朝早くから申込みに並ばれた方で、募集定員となる状態で、毎年入校出来ない方がおられ、誠に申し訳ありませんでした。皆様にはご迷惑をお掛けしたと、深くお詫び申し上げます。

一方近年、開講期間中は午前中の気温と湿度が非常に高い日が多く、熱中症予防に重点を置き授業を進めております。また授業中の安全確保を目的に、保護者カードを発行し入場時のセキュリティ強化と入場者チェックを行っています。

芦屋水練学校では、卒業生が先生となり指導する

制度は、成長過程の子供たちにとって水泳を通じて役割を担う責任、教える喜び、教える難しさを経験することは重要だと考えています。また卒業すると芦屋水友会会員となり、ここでは小学生から米寿の老若男女、諸先輩と幅広い年齢層で、互いを思いやる豊かな人間関係を形成しています。

芦屋水練学校は芦屋市が永らく主催されましたが、平成16年に特定非営利活動法人芦屋水練学校を設立し、この10年は指定管理者となり朝日ヶ丘公園プール運営と芦屋水練学校を主催させて頂きました。法人設立の目的は、競泳の指導と廃れつつある日本泳法の価値の認知、泳法指導、継承並びに振興をもって皆泳・水難事故の防止を掲げてきました。芦屋水練学校は、日本泳法『小池流』を継承し、その中で平成29年に女子と平成30年に男子が2年連続で日本泳法全国大会の小学生の部で1位となりました。多くの卒業生が日本泳法をお互いに激励し、切磋琢磨し練習を積み重ねた結果です。今後、日本泳法継承の小さな芽吹きから夢をさらに膨らませてくれることを期待します。

2. たのしい10年後を想像し

平成から令和へ、また東京2020オリンピック・パラリンピックと変革・変化の時代です。これからの十年、その先の変化にすぐに行動する決断力と行動力が衰えないように常に意識をもって、変化した場合に起こるであろう明るい未来を想像し、諸事に対処したいと考えます。芦屋でより一層水泳を通じて、明るい未来社会に貢献できるよう努力して参りますので、何卒よろしくご支援の程、お願い申し上げます。



芦屋登山会・・・平成の最後10年をふりかえる

芦屋市体育協会の創立70周年を心からお喜び申し上げます。

芦屋登山会も平成31年に70周年を迎えます、スタートは昭和24年芦屋市体育協会の登山・スキー部門として創設、昭和34年にスキー部門と分れ芦屋登山会として独立。

一般市民も含めた「市民トレッキング」と会員だけの「研修トレッキング」をそれぞれ毎月1回開催しています。

平成28年より「ハイキング」から「トレッキング」と表現を変えましたが、これは山を登る、山道を歩く、山の景色、動植物を見て楽しむ等「より山を楽しむ」を前面に打ち出そうということからの変更でした。

この10年の活動状況は表の通りですが六甲山系をベースに、兵庫の50名山、近隣の府県の名山、夏山登山のにつぼん百名山を交えての活動をしています。

この10年の中の衝撃的な体験は平成26年の65周年記念登山で、出発の日に御嶽山が噴火、翌日に荒島岳山頂から真正面に噴煙を見ることになり、自然の驚異を目の当たりにして山、登山というものが持つ奥深い自然との対峙に何か感じるものが湧きました。

今後とも、トレッキングを通じて参加者相互の親睦を深め、心身の鍛錬、健康の増進を図りながら、市民体育の振興、発展に寄与できるよう活動していきたいと考えております。

芦屋登山会 10年（H21年～30年）の歩み

年	実施事業回数	総参加者数	主な事業
2009年度(平成21年度)	24回	711名	夏山登山：石鏡山 山芦屋公園に記念植樹(サクラ)
2010年度(平成22年度)	26回	659名	夏山登山：白山
2011年度(平成23年度)	24回	557名	夏山登山：白馬
2012年度(平成24年度)	25回	654名	夏山登山：甲斐駒
2013年度(平成25年度)	27回	789名	夏山登山：八ヶ岳
2014年度(平成26年度)	26回	697名	夏山登山：蝶ヶ岳、常念 創立65周年記念登山： 荒島岳
2015年度(平成27年度)	26回	746名	夏山登山：立山
2016年度(平成28年度)	26回	701名	夏山登山：鳳凰三山
2017年度(平成29年度)	26回	788名	夏山登山：燕岳
2018年度(平成30年度)	(26回)	(?)	夏山登山：白山(台風 の為中止)





改革への挑戦・改善の継続を課題として
スポーツ精神の意義と体育文化の発展・生涯スポーツの楽しみ創りの一役を。

平成 19 年秋南芦屋浜に潮芦屋運動場が完成し、野球協会の改善及び、体育協会との役割分担も進み、スポーツ規範に基づく生涯スポーツの楽しみや喜びを味わうことができた。

平成 26 年 8 月に芦屋市へ返還し、11 月には運動場内施設をすべて整理した。

芦屋野球協会は、中央公園野球場が唯一の開催会場となってしまった。

平成 10 年に「改革と前進」をテーマに取り組んで来た協会であったが、組織改革が道半ばで迷走を続けている。

軟式野球は、幅広い年齢の方々が楽しめる競技であり、健康、体力保持から地域の交流に至るまで、それぞれの能力・適応性等に応じて、主体的・継続的に行われるスポーツとして役立つものとなる。

平成 22 年 11 月には、「芦屋野球協会創立 60 周年記念式典」をホテル竹園「飛鳥の間」で、多くの行政各位、体育協会、兵庫県軟式野球連盟、阪神軟式野球連盟のご臨席のもと盛大に開催された。

平成 24 年 9 月、三田市で行われた近畿秋季軟式野球大会(2 部)で、芦屋市代表のフレンズが優勝し、11 月に滋賀県彦根市で開催された近畿大会に出場して準優勝した。

開催期日が減少したけれど、地域の交流を重視しながら阪神間、北摂・播磨地区と共に学童野球を通じて楽しい野球に取り組んでいる。

野球人口の減少が著しい昨今、小学低学年の大会を開催して盛り上げてはいるが、チーム編成に苦慮するチームが多いのも事実である。

平成 25 年までは、年間試合数が 260 試合あったのが、潮芦屋運動場が閉鎖されてからは 190 試合に

減少した。また、チーム数も 46 から 34 に減少し、軟式野球の存続も危ぶまれるほどである。

平成 29 年、兵庫県大会の日台友好国際交流学童野球大会で、潮見スターズが準優勝し、念願でもあった台湾遠征が決定した。

チームの保護者会が夏休みの初めに芦屋市役所を訪問して、山中健市長に壮行会を催していただき、8 月中旬に保護者を含め 20 数名が台南市で開催された台湾遠征 4 日間を思いっきり楽しんだ。

スポーツを愛し、仲間を信じ、フェアな精神を尊重するために、自発的に行うことがアマチュアスポーツの原点だと思う。

芦屋野球協会は、体育協会と共にその原点から、普及と発展に資することを目的としながら、生涯スポーツの楽しみ創りに対して一役を担って行けるよう努力します。





『光る汗、輝く瞳、今青春』をモットーに
生涯スポーツとして卓球の普及活動と共に競技力の向上に力を入れていきたい。

芦屋市体育協会設立70周年おめでとうございます。芦屋市体育協会傘下の登録団体として芦屋市卓球協会も昭和28年5月設立以来65周年を迎えています。

人生100年時代と言われる今日、生涯スポーツとしての卓球の果たす役割は益々意義を持ち現在、社会人6チーム（約200名）・高校2校（約30名）・中学校3校（約70名）の芦屋市卓球協会加盟登録団体により構成されています。

近年、オリンピックや世界選手権大会での男女日本選手の活躍、卓球Tリーグ発足による世界レベルの試合の国内開催により卓球は約50年前世界トップ時代以来の黄金期を迎えています。

以前、卓球トップ選手は学校のクラブ中心に各大会参加、技術レベル向上を図ってきましたが、現在のトップ選手は各地区の卓球クラブ、卓球教室に加盟し、より高度・専門性が高い練習により育成されています。卓球に限らず種々なスポーツがその傾向にあります。

体育協会事業としての小学生のための体協チャレンジ卓球も14年目となり、卓球に興味を持つ子供の発掘、卓球以外のスポーツを含め自分に合ったスポーツを楽しむ土台作りを行って来ました。

芦屋市卓球協会では年間4回（春・夏・秋・冬）の芦屋市オープン卓球大会、年間5回の市内大会を主催。体育協会事業の子供の日（5月）・体育の日（10月）に市民参加の卓球練習会を実施しています。卓球は年齢層の広いスポーツであり、50代・60台になって卓球を始めた方、学生時代に卓球をやっていたが永いブランクを経て再度卓球をやりたい方、アスリートとして卓球大会の上位を目指して卓球に取組

む方等目的は色々です。

これからも「光る汗、輝く瞳、今青春」をモットーに、生涯スポーツとして卓球の普及活動と共に競技力の向上に力を入れて行きたいと考えております。

芦屋市体育協会の益々のご発展を祈念すると共に、卓球協会も充実した活動を実施すること、体育協会主催・共催の事業に積極的に参加することにより、芦屋市のスポーツ振興、市民の健康増進の役に立てるよう行動して行く所存です。





鍛えようこころとからだ
消防教室、秋祭りパレードなど地域行事にも参加

芦屋市体育協会創立 70 周年おめでとうございます。
芦屋剣道協会は昭和 28 年（1953 年）に発足し、
第一回の市民大会を芦屋警察署の道場で開催したと
聞いております。

当初は現在の川西運動場の一角にあった木造の柔
剣道場で稽古に励んでおりました、数えてみれば本
年で 66 年になり、芦屋市体育協会発足の 5 年後に
生まれたこととなります。

現在も続けて活動できることは、これもひとえに
市当局、教育委員会、芦屋市体育協会、芦屋警察署
等の皆様方のご支援、ご協力の賜と深く感謝して
おります。

ここ 10 年の歩みは少子化の中、委員も減少する
ことなく、

1. 芦東ライオンズクラブ少年剣道大会
2. 阪神親善剣道大会（7 市 1 町）
3. 芦屋剣道協会父母の会少年剣道大会

ちなみに、ライオンズ大会は阪神地区から 50 団
体 500 名の少年少女が参加する伝統ある大会であ
り、本年で第 49 回をむかえます。

また、阪神親善大会は阪神地区 7 市 1 町の小学生、
中学生、高校生、大学一般がそれぞれの部門で戦う
大会で、これも第 70 回となる伝統ある大会です。

上記大会を柱に各地大会に参加し、芦屋健児の名
をとどろかせております。

発足以来、生みの親である天王寺谷先生、芦原先
生の「志」－「青少年の健全育成」を継ぎ現在に至っ
ております。

現在会員数、子供 70 名、大人 60 名を擁し、ママ

さん剣士も美容と健康をモットーに子供たちと汗を
流しております。

また、芦屋市少年消防クラブがあり、平成 3 年発
足以来少年剣士が中心になり、出初式、秋祭り神輿
パレード、消防教室、防火広報等への参加活動を通
じて市民の防火意識向上の一翼を担っております。

剣道は礼に始まり礼に終わるといわれる武道で
す、少年、青年、成人、高齢者と 4 世代にママさん
剣士も加わり「丈夫な体、丈夫な心、礼儀正しく」
をモットーに日々励んでおります。

今後とも、皆様方のご支援を得ながら「志」を忘れる
ことなく、頑張っていきたいと思っております。





芦屋市ソフトテニス協会は、体育協会が創設された翌年、昭和24年に芦屋市軟式庭球部として活動を開始（昭和29年6月に芦屋市軟式庭球協会として体育協会に入会）しました。

当時の活動拠点は現在の青少年センター敷地内のテニスコートで、まさに体育協会と共にその歴史を刻んできたと言えます。

当協会では長きに亘り芦屋市内外のソフトテニスの普及発展に取り組みを続けて参りました。その主な事業活動を以下紹介させていただきます。

1. 芦屋旗争奪兵庫県都市対抗ソフトテニス大会

昭和29年に第一回大会を開催して以来、昨年で65回を数える歴史的事業です。兵庫県ソフトテニス連盟との共催で、県下16都市（最大）の一般男女からシニアまで幅広い層の精鋭が芦屋の地で力を競うと共に親交を深める合う、地方都市開催のソフトテニス大会では県下最大のイベントとなっています。また本大会は体育協会をはじめ芦屋市教育委員会にもご後援を賜り、芦屋市長、教育長には毎年ご多忙中にも関わらず開会式にご列席頂きご挨拶を頂戴しています。

2. 青少年育成事業

当協会では未来を担う若手の育成事業に積極的に取り組んでおり、市内中学、高校の部活動への技術指導、市内大会（教育長杯）、研修会等の開催運営を行うとともに、底辺の拡大と充実を目的とした小学生ソフトテニス教室を開催しています。この小学生教室よりはソフトテニスを好きになり続けていく子供たちを毎年輩出しています。

3. 体育協会長杯芦屋オープンソフトテニス大会

ソフトテニス競技は高齢になっても現役選手として続けていける生涯スポーツです。当協会では若手のみならず高齢者も楽しく健康的にそして刺激を

もって競技を続けていける環境作りにも積極的に取り組んでいます。その一環としてちょうど10年前の平成21年にシニアを中心とするソフトテニス大会を企画し芦屋公園テニスコートの協力を得て始めました。この試みは大成功で毎年県下、近畿圏のみならず中国、四国他、遠方からも名うてのベテラン選手が集う全国レベルの大会として芦屋の地に定着するに至っています。

最後になりますが、当協会は芦屋市のスポーツ団体でありながら芦屋市内に活動拠点（テニスコート）を持たない苦しい時代が長く続いていましたが、昨年体育協会主導の下、芦屋市そして兵庫県の理解ご協力を得る形で「ユナイテッド・スタジアム芦屋」という新しい活動拠点を得ることが出来ました。この施設の実現にご尽力頂いた関係各位に深く感謝申し上げますとともに、芦屋に根ざしたソフトテニス事業、ひいてはスポーツ事業全体の発展に新たな決意と取り組みを行って参ります。





芦屋市体育協会創立 70 周年おめでとうございます。60 周年をお祝いして早 10 年、その間には様々な事が皆様にもあった事と思います。当弓道協会も変化があり、去る人来る人も有りますが、会員の高齢化が進んで来ているように感じられております。平成 27 年 11 月から翌年の 3 月迄、青少年センター改修工事に伴い弓道場もリニューアルされ、長い年月を経て痛みが酷くなっていたのが、天井や床が一新され矢道や的場も整備されて、見違えるように明るい道場に生まれ変わりました。

現在会員数は 120 名余りになり、会員数を増やすべく様々なことに努力を行っています。毎年 9 月末から 12 月にかけて行われている新人弓道教室を、近隣住民に知って頂く為に、芦屋市の広報等に掲載して頂く様教育委員会に申込を行っており、毎年 10 人前後ですが応募があります。その方々が 100% 会員になつては頂けませんが、定着して頂ける様努力しています。また、最近では NHK の朝ドラや深夜のアニメーションで弓道が紹介されたこともあってか、夜の部の教室では、働いておられる方や学生（中学生から大学生まで）の方が週 1 回ではありますが多数練習に励んでおられ継続して定着して頂ける事を期待しています。

次に、我々の活動についてですが、60 周年の時にも紹介致しましたが、正月 2 日に西宮神社と廣田神社において奉射事始祭は今もなお継続して行っており、テレビや新聞等で正月恒例行事として報じられており、これもまた会員数の増加になればと考えております。

我々は、毎月 1 回月例会を行っており、普段の練習の成果等を競技を通して確認をしておりますが、芦屋市教育委員会主催の 8 月は芦屋市長杯、9 月は教育長杯。体育協会主催で 10 月は体協フェスタで体験教室を開催し、弓矢を持った事のない方々に大的ですが矢を飛ばして頂く体験を行っており、11 月は体育協会長杯争奪弓道大会等冠大会を開催しています。月例会には、芦屋高校弓道部員や弓道部 OB の方も参加して行われており、高校生との交流や見取り稽古による技術向上や

体配（射場での所作や礼儀）の勉強にも役立っており、これからの会員拡大にも繋がるものと思っております。

兵庫県弓道連盟主催の各種大会や伝達講習会にも積極的に参加して、他道場との交流や技能習得にも努めております。会員専用のホームページを開設し、講習会等で習得した内容や道場の練習予定や行事等の情報共有にも尽力しております。加えて、兵庫地連や近畿地域連合会や中央本部主催の段位審査等の受審を奨励しており、錬士等の称号者や高段位者も輩出し、技術向上やモチベーション向上に努めております。最近では（財）日本スポーツ協会が推進しているスポーツ指導者育成にも取組んでおり、弓道指導の指導力向上に資するものと思っております。

又、県外の各種大会にも積極的に参加しており、特に 5 月に京都で行われる、全国の弓道人が 1000 人以上参加される大会や、12 月 14 日は毎年恒例の赤穂義士や、5 月 1 日に大阪住吉大社で行われる遠の大会、特に 1 月の成人の日に三十三間堂で行われる遠の大会では、今年（平成 31 年）長 佑宜子さんが、成人女子の部で優勝するという快挙を成し遂げ、芦屋市の名前を全国に轟かせて頂きました。

さらに、当協会会長でもあり兵庫県弓道連盟会長でもある林 文夫範士八段が、平成 29 年 11 月に文部科学大臣賞を受賞するというおめでたい事があり、県連及び当協会において盛大に祝賀会を開催致しました。

林会長は、常日頃より「自分に厳しく、人には優しく。教え魔になるな、自分の射を見せなさい。」と、見取り稽古の大切さを言われており、加えて人間完成の重要性や大和・慎み・躰等的に中てる事も大事ですが、精神的な強さも必要である事を強調されており、我々会員も 1 歩でもその域に達せられる様日夜稽古に励んでいます。これから何十年と当協会や体育協会が存続する為には、若い方々が気軽に参加出来る弓道、しかし厳しいところもある弓道を目指して、会員一丸となって精進努力をしてまいります。



東京オリンピックを目前にひかえ、大坂なおみ、錦織圭他の若き選手の頑張りにより、日本のテニス界は大きな盛り上がりを見せています。日本に初めてテニスが紹介された19世紀末から芦屋はテニスの街として数多くの名選手を輩出して来ましたが、芦屋市テニス協会は昭和31年に設立以来、芦屋市に於けるテニスの普及と芦屋市民の健康の増進、及びテニス文化の発展に努めて参りました。

現在、傘下に14団体、約1,300名の会員で組織されており、市内にある約40面のテニスコートを利用し多くのプログラムを実施しています。中でも芦屋に於けるテニス普及の活動拠点としての芦屋公園テニスコートでは、体育協会と共同で指定管理に取り組んでいる芦屋国際ローンテニスクラブ（テニス協会会員）が、次の様なプログラムの実施に尽力しています

- ・市民テニス無料開放デー
- ・テニススクール
- ・拠点テニスクラブ
- ・芦屋グランドベテランテニス大会
- ・芦屋地域コミュニティテニスサークル
- ・ナイター練習会
- ・テニスを通じた国際親善
- ・交流事業
- ・親子テニス体験会
- ・ACユナイテッドジュニアテニススクール
- ・マナーキッズテニス教室
- ・市内中高生放課後テニスサークル

テニス協会としてはその他にも加盟団体の協力の下、体協チャレンジ、totoキッズテニス、レッツトライエンジョイテニス等のジュニアプログラムや、知的障害のある方々にスポーツを通じ社会参加を応

援するスペシャルオリンピックス、ジュニア大会、市民大会など毎年数多くのプログラムを実施しています。

テニス協会では傘下の加盟団体それぞれの活動プログラムを支援しながら、テニスを通じて人と人の交流を深め、青少年の健全な育成、市民の健康増進、高齢者の活動の場、障がい者の社会参画を促すなどスポーツ基本法、芦屋市スポーツ推進実施計画の主旨に沿って芦屋におけるスポーツの発展のため尽力して参ります。





芦屋空手協会 10年間の活動

昭和31年に体育協会に芦屋空手協会として加盟（昭和28年に芦屋空手道協会として発足）し、体育協会60周年記念誌にも当会の歩みを投稿掲載されましたが、その後10年の進行、体育館ではもとより、コミスク活動「スポーツ21」における朝日ヶ丘小を始め、精道小空手教室、宮川小空手教室と活動を始め、充実した活動を行っています。

芦屋市スポーツ少年団空手道選手権大会（体育協会会長杯、教育長杯）も昨年で18回を数えることも出来ました。

平成25年11月にはホテル竹園に於いて創立60周年記念祝賀会を開催させて頂きました。市長、教育長を始めとする芦屋市行政関係の皆様方、空手界からは兵庫県空手道連盟、阪神地区空手道連盟の役員の方々、百名に及ぶ大勢の皆様にお祝いに駆けつけて頂きました。

又、此年11月3日文化の日には高橋会長が「永

きにわたり空手の指導を通して青少年育成や市民の健康づくりに尽力され芦屋のスポーツ文化の普及に貢献された」功績にて芦屋市民文化賞を受賞されました。

平成30年7月21日には久しぶりに芦屋サマーカーニバルで演武を行いました。道場立ち上げから65年と云う事で良い記念となった事です。ホームページも開設し会員募集を呼びかけている所です。

又、永年の夢で有ったオリンピック参加が2020年東京オリンピックに空手道が参加出来た事が喜ばしい事で有ります。

練習活動においても、指導者の充実と共に更にママさん武道家も多く参加練習される様に成りました。

今後体協の歩みと共に我が空手協会も先を見越して発展の道を進んで行く決意です。





芦屋市体育協会設立70周年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

我がバレーボール協会も、昭和33年の設立以来60周年を迎えております。これまで各方面の皆様にご多大なご支援、ご協力を頂いたお陰に感謝を申し上げます。

この間、少子高齢化の波は止めようもなく一時期にはチームの減少で往時のような大会を開催出来ないこともありました。その後、数々の取り組みの成果か、少しずつ小中高生が戻って復活の兆しがあり、協会としてもこの10年で新しい事業（ソフトバレーボールの大会、中学生の大会、近隣のチームの交流大会など）を5大会増やすことが出来ました。

当協会は、家庭婦人主体の協会ですが今後は初心者、高齢者にも愛される協会を目指して役員一同頑張るつもりです。



平成30年度 事業計画

月 日	行事名	会場
4月19日(木)	総会(理事会)	市立体育館
5月10日(木)	審判講習会(9人制家庭婦人)	市立体育館
5月20日(日)	審判講習会(ソフトバレーボール)	宮川小学校
5月27日(日)	第44回本郷杯家庭婦人選手権大会	市立体育館
6月9日(土)～	体協チャレンジ2018前期(6月～10月)	市立体育館
6月10日(日)	第27回ソフトバレーボール大会	市立体育館
7月22日(日)	第15回体育協会長杯家庭婦人クラス別リーグ戦大会	市立体育館
8月19日(日)	第10回芦屋杯バレーボール大会(総合男女6人制)	市立体育館・芦屋学園高校
9月15日(土)	第2回芦屋フレンドシップ	市立体育館
10月8日(日)	第19回体協フェスタ市民ソフトバレーボールの集い	市立体育館
11月10日(土)～	体協チャレンジ2018後期(11月～3月)	市立体育館
11月28日(水)	審判講習会(9人制家庭婦人)	市立体育館
12月16日(日)	第10回市長杯家庭婦人バレーボール大会	市立体育館
31年		
1月14日(月)	第35回むつみ杯	市立体育館
2月2日(土)	第6回芦屋ウインターカップ(中学校)	市立体育館
2月17日(日)	第2回芦屋JP杯ソフトバレーボール大会	市立体育館
2月24日(日)	第6回芦屋市バレーボール協会長杯(総合男女6人制)	市立体育館



芦屋市体育協会創立70周年、誠におめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。

この10年を振り返ると、バスケットボールを取り巻く環境が劇的に変化した10年であったと思います。女子日本代表のオリンピック、世界選手権での活躍。プロリーグが発足し全国各地で試合が行われるようになり、バスケがより身近な存在として、子どもたちが未来に夢と希望を持てるスポーツに生まれ変わったことが大きな変化であったと言えます。2020年東京オリンピックに向けてこの機運は更に高まっていくものと確信しています。

芦屋市バスケットボール協会としてもこの10年、各カテゴリーにおいて、市内大会から、県大会、地区大会、全国大会への出場を目指し、各種大会の企画・運営・実施に取り組んできました。今後も、各カテゴリーの繋がりを密にして競技力の向上を図っていくとともに、小学生から大人まで楽しめる生涯スポーツとしての普及にも努めていきたいと考えています。

次の10年に向けて、すべての市民がスポーツに取り組める環境づくりに芦屋市体育協会とともに取り組んでまいりたいと思います。





芦屋ソフトボール協会は昭和35年2月に設立し、来年2月には満60周年を向かえることから記念事業の計画をしているところです。

協会の事業の中心であるソフトボール大会は参加チームを募集してトーナメント方式による大会を、年6回実施してきましたが、年間登録チーム以外の参加チームは、ほとんどない状態が続いたことから、春、夏、秋に実施していた芦屋ソフトボール協会長杯を、平成24年度から登録チームによるリーグ戦（総当たり）の1大会に変更し、公募によるトーナメント大会を3大会程度を実施しています。

登録チームの構成は、平成20年度から登録チームの入れ替わりはありますが、チーム数はほぼ7～8チームを推移しています。

協会の課題としては、登録チームの構成員の高齢化の問題や、学校教育での授業での取上げも減り、クラ

ブ活動も無い状態に加え、野球のように少年野球リーグといった体系もないことから、衰退の一途をたどっているという大変難しい問題を抱えています。

協会の目的である会員相互及びその家族の親睦と健康に寄与することをもって、なんとか、登録チーム数の減少を食い止めながら今後の運営を図っていきます。



令和元年度登録チーム	令和元年度役員	令和元年度事業予定
芦屋市役所ソフトボール部	会長：小葉竹 俊	4～8月 芦屋ソフトボール協会長杯ソフトボール大会
芦屋ロッキーズクラブ	副会長：岡崎 光男	9月 体育協会長杯ソフトボール大会
一球会	理事長：辻 亮一	10月 体協フェスタソフトボール大会
ABC ALL KIDS	会計：田中 良知	11月 大会予備，総合練習
からとソフトボールクラブ	監査：松下 龍也	2月 創立60周年記念事業
剣	理事：木ノ下 典弘	
Saihoji	土江 英幸	
RAN	関山 輝哉	
	福岡 浩平	
	小谷 弘之	
	福本 恭祐	
	三浦 健太郎	
	森本 勝則	
	顧問：伊藤 舞	



力をひとつに、心をひとつに。

特定非営利活動法人芦屋市体育協会 70 周年おめでとうございます。私たち芦屋市サッカー協会も 2018 年 9 月に満 50 歳を迎えることになりました。兵庫県サッカー協会の傘下としての 13 都市協会の一つである芦屋市サッカー協会が、半世紀前に設立され今日に至るにあたり兵庫県サッカー協会の方々は勿論地元芦屋市体育協会の加盟団体と共に地域スポーツの普及に努めてまいりました。

芦屋市におけるサッカーという競技を総括する協会として中体連、高体連も含め 4 種 (U-12) から 1 種 (社会人) シニア (O-40) フットサル委員会と審判、技術委員会とサッカーファミリー 1000 人以上の会員を持つ体育協会でももっとも大きな協会のひとつとして、芦屋市体育協会の事業にも積極的に取り組んで参りました。

小さな芦屋市の中であらゆる年代のサッカーをする環境を充実させてきました。他の種目協会に先駆けて日本サッカー協会は中学高校年代を部活動と違う地域スポーツの充実 (クラブユース連盟) を図ってきましたが、これをモデルとして芦屋市の少子化における育成年代のモデルケースとしてユナイテッドプロジェクトの中核をなしてきました。

サッカー協会が体育協会とともに地域に根ざしビジョンをひとつにすることで各カテゴリーにおいて、小さな芦屋市のサッカーが確実に競技力を向上させてきました。4 種では兵庫県トップリーグに芦屋ユナイテッドが発足当時から一部リーグで活躍して 2 種でも県立芦屋高校、甲南高校、芦屋学園は常に兵庫県の上位で活躍しております。

またシニアリーグは毎週土曜日川西運動場で開催され、芦屋のサッカーは確実に進化しています。次

の 10 年は小学校中学校年代の少子化対策として部活動を含めたチーム芦屋がいかにまとまるかが大きな課題です。

芦屋市体育協会が目指す芦屋市スポーツ推進計画の具現化に向けてサッカー協会がその先導役として責務を果たすことで、芦屋市サッカー協会が兵庫県いや日本一の都市サッカー協会となることを目指します。





芦屋市バドミントン協会は、平成30年に50周年、レディースクラブは45周年を迎えることができました。10年前とは少し異なり、現在、協会には5つのクラブが活動しており、うち3つがレディースクラブです。

10年前は震災の影響で休部していた男女混合のクラブが、クラブ会員の努力により活動を再開しました。現在は会員数も増え、初心者から上級者まで誰もが楽しめるクラブになりました。他にも1つのクラブがレディースから一般対象のクラブに変更になりました。レディースの1クラブも、形を変えて続いています。

バドミントン協会の主な活動としては、年間に一般男女対象3、一般女性対象2、青少年対象2、の7つの大会の開催がまず挙げられます。大会の数は10年前と同じですが、ここ数年は参加者が徐々に増えており、バドミントンブームの高まりと、芦屋の大会を楽しんでいただいていることが感じられて嬉しい限りです。

また、体育協会の事業（体協チャレンジ、55フェスタ、スポーツフェスタなど）にも積極的に協力し、バドミントンの普及啓発活動を行っています。一生懸命ラケットを振っている子どもたちを教えるときなど、そのエネルギーに圧倒されてしまいます。それは、10年前も今も同じです。

もちろん、それぞれのクラブでのそれぞれの目標に向かっての練習（たとえば試合での勝利、たとえば体力の維持など）、そして会員相互の親睦が大切なのは、いうまでもありません。どの協会の方々も同じかなと思うのですが、年々変化する自分の体と対話しながら体を動かし、一週間前、一か月前、一年前よりどこかの面で前に進めれば、新しいことを知ることができれば、それはとても楽しいことです。

平成30年11月11日に芦屋竹園ホテルで行われた協会創立50周年・レディース創立45周年記念祝賀会には協会会員が大勢参加しました。いつも大変お世話になっている方々ももちろんご来賓としてお招きしましたところ、手作りのたいへん楽しい会だった、皆さんの協会に対する思いがとてもよく伝わったと言っていました。

祝賀会にはレディース創立当初から続けていらっしゃる会員が6名、全員参加されました。協会、レディース、バドミントンに対する思いを伝えていただき受け継いでいきたいと思います。

この10年間、いろいろなことが緩やかに、ときに驚きや喜びを伴って変化していきました。大きなことを言えば、バドミントンがニュースの一面を飾るようになり、テレビ放送もずいぶんと増えました。身近なことでは女性のライフスタイルが変化し、平日日中の活動に毎週参加する、ということがむずかしくなってきました。反面、自分のできる時間にチャンスがあればやってみたい、ということでもあるようです。

この原稿を書いている2か月後には、平成の次の時代が来ると思うと、感慨深いです。時の流れをしなやかに受けとめながら、次の10年を楽しく乗り切っていきたいと思います。





1、少林寺拳法とは

少林寺拳法とは、1947年に香川県多度津町で、宗道臣によって創始された日本固有の武道です。その特徴は独自の教えと技法と教育システムです。

少林寺拳法には流派の区別がなく、日本武道館指定9団体のひとつで、単一の団体としては世界最大の武道団体であり、今では世界36カ国に広がっています。

①教え

自信と勇気と行動力と慈悲心を持った社会で役立つ人づくりの行です。技法のあり方も修練体系も、「人づくり」のための手段と位置づけられています。

②技法

剛法 51種・柔法 183種・圧法 36種・締法 8種・整法など、偏りなく様々な状況に対応できる多様な技法体系をもちます。決して相手を殺傷する事を目的とせず、相手と調和することによって成立する組み立てとなっています。

③教育システム

相手と協力して共に技法の向上を図る独自の修練体系を持ちます。

道場には殺伐とした空気ではなく和やかな空気が流れ、老若男女問わず誰もが楽しみながら取り組むことができます。

2、芦屋市少林寺拳法協会

芦屋市少林寺拳法協会は、初代会長である花木義輝が1970年に設立した。市内4箇所・週6日の練習の修練を実施し、全国大会優勝をはじめ、各種大会で数々の優秀な成績を修める拳士を輩出しているほか、多くの指導者をも輩出している。花木前会長は少林寺拳法の調和の理念を体現する温和な人柄で、少林寺拳法界随一の技法も持ち合わせ、全国・海外からも教えを請う拳士が多数道場に訪れた。また芦屋市体育協会会長、兵庫県少林寺拳法連盟理事長を歴任し、地域・社会貢献活動も精力的にこなすなど、少林寺拳法指導者の鑑のような存在である。

2010年に会長を交代、現在は田中英将が会長を務め、岸本重行副会長をはじめとする多くの拳士・指導者に支えられながら、花木前会長の意志を受け継ぐべく協会を運営・青少年の育成にあたっています。





“NO RUGBY, NO LIFE !”

体育協会創立 70 周年をともに祝えること、傘下団体として大変喜ばしく思います。

本年が『ラグビーワールドカップ 2019 日本大会』開催という記憶に留めやすい年であることもまた嬉しい巡り合わせだと思っております。

さてこの 10 年を振り返ってみると、それぞれのステージでこれまでの取り組みが結果として表れてきた 10 年だったと思います。少子化の影響から会員の減少に苦慮するミニラグビー、ジュニアラグビーのチームが多い中、全国屈指の大所帯となった芦屋ラグビースクール。その中学部が 2013 年に『全国中学生ラグビーフットボール大会』で優勝し日本一に輝きました。またここ数年の高校全国大会や大学選手権では OB 達が各校の中心選手として活躍しており、2023 年開催のワールドカップでの代表入りも期待できる状況です。また中学卒業後に単身ニュージーランドへ留学しオールブラックスを目指す者も現れ、夢を叶える進路も多様化してきました。一方児童が 40 名を超える学年もあり指導運営において新たな嬉しい悩みが出てきているのも現状です。

高校年代においても部員不足で合同チームが増える中、芦屋高校、甲南高校とも県下では常に上位に位置し全国大会出場を目指し、また創部間もない芦屋学園中高校もその基礎を築くべく日々の活動に取り組んでおります。また芦屋高校ラグビー部では定期的に学童教室に出向き、児童と一緒にタグラグビーを楽しみ、社会貢献を通じ自らもまた成長の糧となる活動に取り組んでおります。

社会人年代では芦屋クラブが、継続的な強化の結果 2013 年～ 15 年、2018 年と 4 度の全国クラブ大会出場を果たしており、何れも 2 回戦の壁に阻まれ全国ベスト 8 で終わっていますが、頂点を目指し日々トレーニングに励

んでおります。

不惑の年齢 40 歳以上のカテゴリーでは芦屋楽感ラグビークラブが活動しており、ここ 10 年の会員増加数は、正に高齢化社会の縮図を見ているように思います。元トップリーガーから現在最年長 86 歳のプレーヤーまで元気に楽しく活動しており、40、50 代の兵庫選手権では常に優勝を争う強豪チームとなっております。

一方、体育協会事業では、体協チャレンジでのタグラグビー、5.5 フェスタでの楕円球ゲームイベント、体協フェスタでの初めてのラグビー体験会等、楕円球に触れてもらいスポーツの楽しさを感じてもらう普及活動を行っております。また総合型地域スポーツクラブ“A.C. 芦屋ユナイテッド”では U12 ラグビープログラムで参画し、個々の競技力向上を目指した育成強化を図り、現在このプログラムは多種のスポーツに有効な身体の調整力を養うコーディネーショントレーニングとして発展継続中であります。

最後にこれからの 10 年、我々芦屋ラグビーソサエティは、スポーツ界を取り巻く環境変化に対し常にアンテナを張り、それらを取った組織運営と地道な地域密着の活動を両輪とし、バランスをとりながら一步一步進んで行きたいと考えております。

さて、この記念誌が手元に届く頃には『ラグビーワールドカップ 2019 日本大会』も終了している?と思いますが、結果は如何に??





日本拳法芦屋 10年間の活動

当会は平成4年に緒方憲吾が芦屋市立潮見小学校の体育館を使ってコミスク活動として始めました。その後平成9年に体育協会に加盟しました。

活動の拠点となる道場も芦屋市立体育館柔道場になり空調も整った畳での練習場で阪神芦屋駅近くの立地条件の良さもあり練習生の対象も芦屋市全体になりました。

この10年は少年においては毎年の体育協会の実技表彰を多くの選手が受賞しました。

その選手たちの数人は芦屋の道場から高校、大学の日本拳法の部活で活躍をして指導者や道場の後輩たちを喜ばせてくれました。

現在の当会は幼児の入会を積極的に進めています。日本拳法を経験したことのある親御さんが子供さんの手をつないで道場を訪ねて入門してくれると今まで続けてきたことが報われたような気がします。

これからの10年も子供たちの成長を楽しみながら市民スポーツとして成人の部も更に充実させていきたいと思っています。

日本拳法芦屋案内

練習場所：芦屋市立体育館柔道場

(原則として週1回)

指導者：緒方憲吾・渡邊訓行・黒田健

連絡先：黒田敦子 TEL (0797) 32-9403





芦屋市カヌー協会は2005年4月に設立し、同年5月に芦屋市体育協会に認証、加盟させていただきました。芦屋市体育協会において現状では、2番目に新しいスポーツ団体になります。

芦屋市カヌー協会は、芦屋市内におけるカヌースポーツの普及及び振興を図り、カヌー競技に関わる市民の相互理解を深め、豊かな地域社会づくりと青少年の健全育成に寄与する事を目的とし活動しています。

芦屋市カヌー協会は、1997年に設立された芦屋ドラゴンボート協会を母体として、2006年のじぎく兵庫国体カヌーフラットウォーターレーシング競技が芦屋チャンネルパーク特設カヌー競技場において開催されることに向けて支援組織として組成されました。1996年アトランタオリンピック、2000年シドニーオリンピック日本代表選手であった 遠藤（旧姓丸山）小百合選手を中心に県立芦屋高校カヌー部、県立国際高校カヌー部、市内カヌー愛好者、芦屋ドラゴンボート協会の会員約20名により構成され、活動を開始しました。

当協会は本年度において設立14年目を迎えます。まだまだ、成長期の団体として、大会開催を通じてカヌー競技者人口の拡大、カヌー競技の普及及び振興を行っています。年間4つのカヌー競技大会の開催と隔週開催のカヌー教室が主たる自主事業です。4つのカヌー競技は、3月には関西圏の大学・高校生のカヌー競技者の参加による長距離レースの「芦屋カヌーレガッタ」、5月には兵庫県のカヌー競技者の参加による単距離レースの「兵庫県カヌー県民大会兼国体兵庫県予選カヌー競技スプリント種目」、6月には関西の大学生カヌー競技者の参加による単距離レース「大阪学生カヌー選手権大会」、7月には「芦屋ドラゴンボートレース大会」を行っています。カ

ヌー教室は協会団体会員の「芦屋カヌークラブ」によるカヌー教室を行っています。市内高校カヌー部OBを講師に迎え、子供たちへの初心者カヌー体験教室は盛況に開催しています。子供たちのみならず成年の方のカヌー体験も大歓迎ですので是非ご参加お願いいたします。また、カヌー協会会員は、NPO法人芦屋市民まつり協議会に対しても、協力しています。芦屋サマーカーニバルの開催ボランティア協力、潮芦屋アクアスロン大会の運営協力等、海事に関する運営ボランティア協力を惜しみなく行っています。

今後、芦屋市カヌー協会では、「芦屋市民カヌー大会」や「芦屋市体育協会会長杯市民カヌー大会」の開催をするなど、より一層の普及及び振興に努めてゆきたく考えています。カヌーは市民が気軽に楽しめる生涯スポーツです。生涯スポーツとして広く市民に認知され、共に活動する方々を拡大してゆきたいと思っています。

のじぎく兵庫国体のカヌー競技の会場であった「芦屋チャンネルパーク」は関西圏においても屈指のカヌー競技及びカヌー練習に適した環境です。しかしながら、動力船による通行は危険極まりない状況です。芦屋市や尼崎港管理事務所、海上保安庁西宮海上保安署とも協働し、安全海域の確立を目指した活動も行っていきたいと考えています。

カヌー競技に適した環境を生かし、「芦屋をカヌーのメッカに！」をモットーに今後も活動してゆく所存です。活動にご協力のほどよろしくお願いいたします。



芦屋市体育協会の創立70周年を心からお慶び申し上げます。

芦屋市ゴルフ協会は「芦屋市民のスポーツ振興とゴルフの普及、発展を図るとともにゴルフを通して市民の輪を広げ健康の増進と健全な青少年の育成に寄与すること」を目的とし、平成22年に設立され、会長大橋一元のもと活動を開始し、現会長山田正雄のもと、ゴルフの普及、発展に努めております。

芦屋市ゴルフ協会の主な活動内容は次のとおりです。

①「ジュニアゴルフスクール」の運営協力

芦屋カンツリー倶楽部で、春休み、夏休み、冬休みの年3回開催される「ジュニアゴルフスクール」を共催し、ジュニア育成に努めております。



②「ゴルフワンポイントレッスン」の開催

芦屋市体育協会主催「体協フェスタ」開催に伴い、毎年体育の日合わせて「ゴルフワンポイントレッスン」を開催し、市民の健康増進に寄与しております。

③「芦屋市民ゴルフ杯」の開催

芦屋カンツリー倶楽部の公益事業として年10回実施しております「芦屋市民ゴルフデー」開催日のうち、3月、6月、9月、12月開催日に「芦屋市民ゴルフ杯」を実施し、市民の交流、健康増進に努めております。

芦屋市ゴルフ協会は2021年に10周年を迎えます。10周年に向けて活動をさらに拡充させ、ゴルフの普及に役立っていききたいと考えております。



令和元年度加盟団体名簿

団 体 名	設 立 年	代 表 者 名	登 録 者 数
芦屋市陸上競技協会	昭和 22 年	松木 義昭	260
芦屋柔道協会	昭和 23 年	西村 仁	60
芦屋水友会	昭和 24 年	後藤田 優	862
芦屋登山会	昭和 34 年	黒畑 實	53
芦屋野球協会	昭和 25 年	樋口 文夫	700
芦屋卓球協会	昭和 28 年	松本 進	300
芦屋剣道協会	昭和 28 年	藤田 通寛	130
芦屋市ソフトテニス協会	昭和 29 年	中西 弘之	35
芦屋市弓道協会	昭和 30 年	林 文夫	120
芦屋市テニス協会	昭和 31 年	静 啓太郎	1300
芦屋空手協会	昭和 31 年	高橋 誠彦	170
芦屋市バレーボール協会	昭和 33 年	菊田 正治	210
芦屋ソフトボール協会	昭和 35 年	小葉竹 俊	158
芦屋バスケットボール協会	昭和 39 年	伊藤 健二	300
芦屋市サッカー協会	昭和 43 年	西田 俊一	1200
芦屋市バドミントン協会	昭和 43 年	國広 正則	80
芦屋市少林寺拳法協会	昭和 47 年	田中 英将	35
特定非営利活動法人芦屋ラグビーソサエティ	昭和 53 年	木下 哲	500
芦屋ヨットクラブ	昭和 56 年	木ノ下 修	43
日本拳法芦屋	平成 09 年	緒方 憲吾	13
芦屋市カヌー協会	平成 17 年	浜田 雅義	30
芦屋市ゴルフ協会	平成 23 年	山田 正雄	84
芦屋市ゲートボール協会	昭和 57 年	休 会	

特定非営利活動法人芦屋市体育協会 役員名簿

職 名	氏 名
会 長	西田 俊一
副 会 長	國広 正則、若林 裕子、京田 弘幸
理 事 長	木下 哲
副 理 事 長	小原 利之、市井 夕美
理 事	浅田 太枝子、一宮 文雄、小倉 正幸、飯森 恵、菊田 正治、黒田 敦子 田中 英将、谷頭 誠、中澤 清浩、中西 弘之、野島 寛、半田 篤 平井 守、古津 純子、森本 勝則、山田 正雄、山根 修志、山邊 昌紀

創立 70 周年記念芦屋市体育協会 功労者表彰者

花木 義輝	高橋 誠彦	牧野 君代
山中 健	寺本 三恵子	権藤 弘之
西村 康治		

専 門 委 員 会

委員会	職名	所属協会	氏名
総務委員会		芦屋柔道協会	浅田 太枝子
		芦屋市ソフトテニス協会	中西 弘之
		芦屋市弓道協会	山邊 昌紀
		芦屋市テニス協会	吉岡 亨
		芦屋市サッカー協会	谷井 恒介
	委員長	芦屋市バドミントン協会	國廣 正則
		芦屋市少林寺拳法協会	田中 英将
		芦屋市カヌー協会	根津 嗣郎
		芦屋野球協会	一宮 文雄
		芦屋市ゴルフ協会	山田 正雄

事業委員会		芦屋柔道協会	上坂元 庸隆
		芦屋剣道協会	米澤 正
		芦屋市テニス協会	中澤 清浩
		芦屋市バレーボール協会	宮本 直季
		芦屋市バレーボール協会	三宅 明美
	副委員長	芦屋市サッカー協会	半田 篤
		芦屋市サッカー協会	河野 英樹
		芦屋ラグビーソサエティ	木下 哲
		芦屋ラグビーソサエティ	廣山 裕樹
		日本拳法・芦屋	黒田 敦子
		芦屋空手協会	山村 光史
		芦屋市カヌー協会	古津 純子
	委員長	芦屋野球協会	小原 利之
		芦屋野球協会	西村 康治

広報委員会		芦屋柔道協会	田中 兼規
	委員長	芦屋水友会	市井 夕美
		芦屋水友会	八塚 香保里
		芦屋市卓球協会	若林 裕子
		芦屋市卓球協会	松本 進
		芦屋ラグビーソサエティ	湯浅 鉄二
		芦屋市バスケットボール協会	野島 寛
		芦屋登山会	平井 守
		芦屋空手協会	飯森 恵
		芦屋ソフトボール協会	森本 勝則
			本多 克己

「力をひとつに」

芦屋でサッカーをしよう!!

ASHIYA FA の理念

サッカーを通じて豊かなスポーツ文化を創造し、
人々の身心の健全な発達と社会の発展に貢献する。

ASHIYA FA のビジョン

サッカーの普及に努め、いつでも、どこでも、誰でも
身近にサッカーする環境を目指します。

サッカーを通じてフェアプレー精神を養い、
ASHIYAのサッカーファミリーが、市民モラルの向上に努め、
世界一の芦屋市、世界一の市民、世界一のサッカー協会を目指します。

ASHIYA FA のサッカーファミリー

選手／チーム、審判、指導者、協会役員だけでなく、
運営スタッフ、親、サポーター／協賛、などサッカーを愛する仲間＝ファミリー

夢・チャレンジ・実現

芦屋市サッカー協会

<http://www.ashiya-fa.jp/>

祝 芦屋市体育協会創立70周年

芦屋市卓球協会

活動チーム	会 長	松本 進	
コスモス卓球会	副会長	若林 裕子	
マーガレット卓球会	理事長	野中 勇	
芦屋ひまわり卓球会	副理事長	中根 明	
芦屋木曜卓球クラブ	会 計	池野 弘子	
カトレア	理事（中学）	安田 歩	
芦屋卓球研究クラブ	（高校）	真鍋 尚	
芦屋学園付属高校		小石川ゆりえ	濱井 孝子
甲南高校		上原 蓉子	村島 ひとみ
芦屋市立潮見中学校		河本 文彦	関 俊明
芦屋市立山手中学校		竹村 光代	本山 英明
甲南中学校		楠 季美子	吉田 静子

祝！ 芦屋市体育協会創立70周年



Always do your best !

NO RUGBY, NO LIFE !

And no beer, no life !

祝 芦屋市体育協会創立 70 周年

芦屋ソフトボール協会



会 長 小葉竹 俊
副 会 長 岡崎 光男
理 事 長 辻 亮一
会 計 田中 良知
監 査 松下 龍也
理 事 森本 勝則
理 事 三浦健太郎
理 事 木ノ下典弘
理 事 土江 英幸
理 事 関山 輝哉
理 事 小谷 弘之
理 事 福本 恭祐
理 事 福岡 浩平
顧 問 伊藤 舞

芦屋ソフトボール協会も令和 2 年 2 月に設立 60 周年を迎えます

祝 芦屋市体育協会創立 70 周年

芦屋市テニス協会

《加盟団体》

(一社) 芦屋国際ローンテニスクラブ
ル・クール TA
六麓荘テニスガーデン
コープこうべ芦屋シーサイドテニス
テニスラボ
NPO 法人カルチャー&スポーツアソシエイツ
芦屋松浜テニスクラブ

芦屋市硬式テニス部
NEO LAWN TENNIS CLUB
Advantage Tennis Club
PanaChildren
ブチケア・テニスアカデミー
グリーンテニスプランニング
エーステニスカンパニー

祝 芦屋市体育協会創立 70 周年 芦屋市バレーボール協会



名誉会長 柳 洋
 会 長 菊田 正治
 副 会 長 北尾 文孝
 副 会 長 宮本 直季
 副 会 長 服部 和子
 参 与 原田 次代
 理 事 長 三宅 明美
 副理事長 小島みつ子

祝 芦屋市体育協会創立 70 周年 芦屋空手協会



会 長 高橋 誠彦
 副 会 長 谷口 学
 末菅 雅彦
 理 事 長 岡田 新一
 副理事長 飯森 恵
 荒尾 憲司
 常任理事 来女木貴裕
 久津那 謙
 小谷 民昭
 宮田 英隆
 理 事 越 英一郎
 實川麻奈美
 黒木 伸巖
 藤森美希子
 岸本 延幸
 片山 英子
 斉藤 宏
 端山亜希子

祝 芦屋市体育協会創立 70 周年

芦屋市カヌー協会



芦屋カップドラゴンボートレース大会の様子



芦屋カヌー教室の様子

会 長 濱田 雅義
副会長 立花 暁夫
副会長 古津 純子
顧 問 遠藤 小百合
理事長 根津 嗣郎

祝 芦屋市体育協会創立70周年 芦屋登山会



会 長 黒畑 實
副会長 大槻 嗣郎
副会長 水関 史郎
顧 問 平井 守

新入会員を募集しています。

<http://ashiyatozankai.la.coocan.jp>



芦屋水友会



芦屋水練学校は今年、創立71年を迎えます



芦屋水友会

会長：後藤田 優

特定非営利活動法人 芦屋水練学校

〒659-0093 芦屋市船戸町3-25-303 TEL/FAX 0797-31-8860

校長：井上 治巳

※詳しくはホームページをご覧ください！
<http://www.eonet.ne.jp/~ashiya-suiren/>

祝 芦屋市体育協会創立 70 周年

芦屋市バドミントン協会



会長・理事長	國 廣 正 則
副 会 長	豊 岡 直 子
顧 問	近 藤 岱 子
相 談 役	牧 野 君 代
会 計	今 川 明 美
会 計 監 査	中 川 徹
副 理 事 長	山 下 正 昭
理 事	日 美 佐代美
	林 千賀子
	古 家 由美子
	相 原 敬 子
	柴 山 三 枝
	延 美佐子
	國 廣 順 子

みやび流押絵



140年の伝統を越える絹の立体画「みやび流押絵」
心をこめたプレゼントや季節を彩るインテリアなど
お好みやご予算に合わせてお選び下さい
各地教室での制作体験もごさいます

二代目家元 小西絹甫

三代目 小西松甫

四代目 小西聡甫 (芦屋ラグビースサエティ理事)

〒659-0065 芦屋市公光町3-15

TEL&FAX 0797-34-1001

70周年おめでとうございます

社会福祉法人 山の子会

当法人は、高浜町にある複合福祉施設 高浜町ライフサポートステーションをはじめ、芦屋市、神戸市、大阪府、福岡県行橋市で児童発達支援施設、認可保育園、企業主導型保育園を運営しています。

◎複合福祉施設 高浜町ライフサポートステーション

<https://yamanokokai.or.jp/> (芦屋市高浜町 1-7, 0797-23-1616 代)

<赤ちゃんから高齢の方まで、障がいのある方もない方も、誰もが集える福祉施設です。お気軽にお越しください>

- ・企業主導型保育園 茶屋高浜保育園 ・就労継続支援A型 ドリームクライム ・就労継続支援B型 エール
- ・児童発達支援センター あしやみらい ・放課後等デイサービス 芦屋アフタースクール
- ・障がい者向けグループホーム 咲楽 ・障がい者向けショートステイ のびのび
- ・地域密着型通所介護 ルミエール
- ・定期巡回、随時対応型訪問介護看護 ルミエール



館内には上記の事業所ほか、どなたでもご利用いただける事業を行っております。

- ・カフェ・ブーク・わんにゃんセラピールーム・貸教室・ひみつきち (芦屋市地域まなびの場支援事業)
- ・地域と子どもの食堂「もぐもぐ」などを運営しています。詳しくは上記へお問い合わせください。

保育園事業HP <http://www.ashiya-chaya.com/> 行橋みらい学園HP <http://yukuhashi-miraigakuen.org/>

お買物・ご用立ては 商工会員 のお店で



芦屋市内には全部で14の商店街があります。
商店街以外にも多くの魅力的なお店があります。



お店はこちらから
検索できます。

芦屋市商工会

会長 永瀬 隆一
副会長 新谷 勝彦
副会長 桑田 敬司

芦屋市公光町4-28
Tel 0797-23-2071



技術にきびしく。表現にやさしく。

株式会社 永瀬

代表取締役 永瀬 隆一

新築からリフォームまでお気軽にご相談下さい

総合建設業

〒659-0064 芦屋市精道町10番12号
Tel 0797-31-1644 Fax 0797-23-4610
E-mail:ryuichi_nagase@nagase-co.net
URL <http://nagase-co.net>



特定非営利活動法人芦屋市体育協会70周年おめでとうございます



2019
Junior Chamber International Ashiya

一般社団法人芦屋青年会議所では会員を募集しています
詳しくはホームページまで

編集後記

特定非営利活動法人芦屋市体育協会は、平成31年3月31日をもって、芦屋市・体育館青少年センター等の指定管理業務を解かれたことから、今回の広報誌の作成に携わっていた体育協会職員も途中で辞めざるをえない状況となった。

広報誌の編集・作成には、各種目団体から集まった11名の広報委員が、不慣れな中でなんとか作り上げることができたが、内容に不十分な部分があれば、ご容赦願いたい。

制作にあたって、ご協力いただいた各種目団体及び広告の協賛をいただいた企業の方々並びに印刷会社の担当者に感謝をするとともに、ご祝辞を賜りました芦屋市長並びに芦屋市教育長にも、この紙面をかりてお礼を申し上げます。

特定非営利活動法人芦屋市体育協会
広報委員会 一同



70周年記念誌

60周年から10年の歩み

令和元年 11月 10日発行

発行／ 特定非営利活動法人 芦屋市体育協会
〒 659 - 0072
芦屋市川西町 15 - 3
芦屋市体育館・青少年センター内
T E L 0797 - 38 - 3989
H P : www.ashiya-taikyo.jp
発行責任者／ 西 田 俊 一
編 集／ 芦屋市体育協会広報委員会
監 修／ 若 林 裕 子・市 井 夕 美
印 刷／ 株式会社 旭成社